



▲たつぷく組の神輿作りと田原祭りの様子(田原福祉専門学校撮影)

たつぷく組の神輿作り

田原福祉専門学校の学生手作りの神輿は、行灯あんどんに絵を描くところから始まり、組み立てることも一大事でした。地域の方々に教えていただき、手伝ってもらいながら、やっと完成させることができました。祭りの裏方も体験して、大変さも実感できました。



Q.3 田原祭りは毎年雨になると聞きましたか？

A 今まで、ずっと祭りの日は雨だったのですが、昨年の祭りは晴れたのでビックリしました。昔から、祭りの日に雨が降ると「渥美半島は豊作になる」という言い伝えがあるそうです。

Q.4 田原祭りの見所はどこですか？

A 田原祭りの主役である昼な山車やまぐるま(昼の山車)では、新町・本町・萱町の山車が3台立ち並ぶ姿が見所だと思います。山車を引くのは、地元地元の祭り関係者だけでなく、いろいろな方が参加しても良いですよ。できるだけ多くの方々に引いていただきたいですね。

夜には、着飾った子どもたちが、夜山車よるやまぐるまの上で練習してきた手踊りなどを、一生懸命披露する姿に心を打たれます。

Q.5 最後に、鈴木さんにとって、田原祭りとどんな存在ですか？

A 「二年の締め」みたいなものです。普通は1月〜12月を一年の区切りにすると思いますが、祭りを行う9月が私の中の一年の終わりで、また始まりの月でもあるのです。本当に祭り大好き人間なんですよ！祭りが楽しみで仕方がなく、お盆になると毎身体がうずうずしてきますね。(笑)

インタビューを終えて

終始笑顔で、熱くお祭りについて語ってくださった、鈴木正彦さん。祭りに始まり祭りに終わる…。本当に、お祭りが大好きで、生活の一部になっている様子がひしひしと伝わってきました。こうした方々がいるからこそ、地域の活力につながり、そして、江戸時代から続く田原祭りが、若い世代に引き継がれていくのだと思いました。



今回の取材で、祭りについての知識などを得ることができました。今年も、昨年とは違った感覚で、ぜひ田原祭りに参加させていたきたいと思います。



▲分銅組大筒